

# 家畜の遠隔診療アンケート 結果

# アンケート結果 概要

- 令和 6 年 7 月から約 2 か月間、Microsoft Formsによりアンケートを実施
- 92か所の診療所（所属獣医師数821名）から回答があった
- 「遠隔診療」の定義・認識が人によって異なっている可能性が示唆された（送付画像の確認をどう扱うかなど）
- 日常的に実施していると答えた診療所が約 9 %に留まるなど、遠隔診療が十分浸透しているとは言い難い状況であった
- 一方、普段から実施している診療所においては、動画を用いた遠隔地からの診察など、診療の効率化が図られるような取組が実施されていた
- 今後、遠隔診療を導入する診療所を増やし、診療の効率化を図るためには、まずはスマートフォンなどの基礎的な通信インフラの整備が課題

# アンケート結果

- 回答診療所数 92か所（NOSAI 81か所、開業 10か所、農協 1か所）
- 所属獣医師数 821名（NOSAI 805名、開業 16名、農協 1名）

全産業動物診療所数4,119か所の2%  
産業動物臨床獣医師4,460名の18%  
NOSAIなど大規模診療所の  
回答率が高かった。

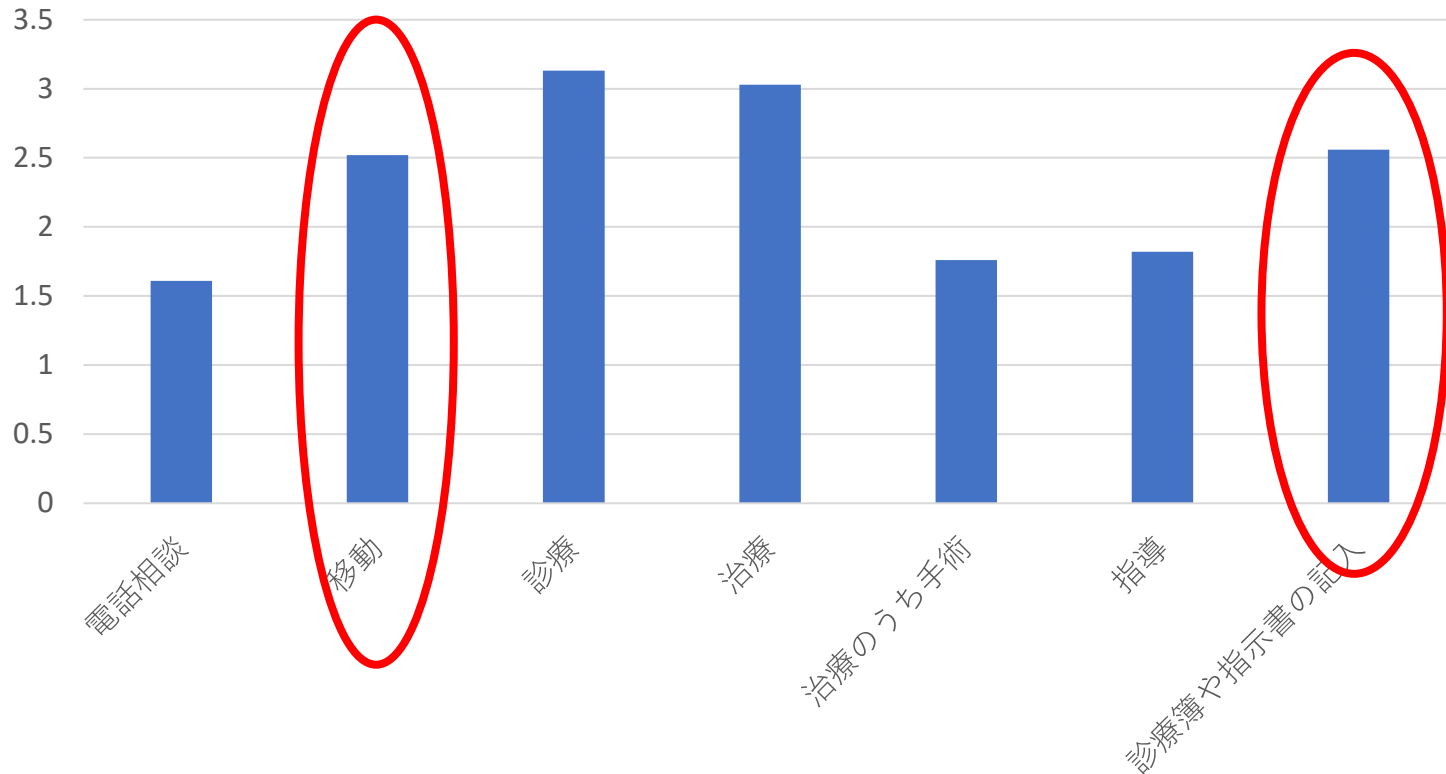
- 回答者の平均年齢 53.8歳

- 主な診療対象
  - 肉用牛：82
  - 乳用牛：84
  - 豚：9
  - 馬：39
  - 羊：1
  - 鶏、錦鯉、アルパカ：1（個人開業）

# 勤務時間

※複数回答の単純集計のため合計10割にならない

1日の勤務時間の割合



- 診察、治療に3割程度の時間を割いている
- 一方、移動にも2.5割程度の時間を割かれている
- 同様に診療簿や指示書の記入にも2.5割の時間を割かれている

# 遠隔診療の活用状況

- 日常的に遠隔診療を実施している診療所 8/92(8.7%)

## 診療所が提供する獣医療の内訳

| ひと月あたり合計    | 全診療所     | 遠隔診療を活用した場合<br>(8診療所の合計) |
|-------------|----------|--------------------------|
| 診療対象となった経営体 | 21,807戸  | 17戸(0.08%)               |
| 診療件数        | 110,237件 | 31件(0.03%)               |
| ひと月あたり平均    | 全診療所     | うち遠隔診療を活用した場合            |
| 診療対象となった経営体 | 245.0戸   | 0.2戸                     |
| 診療件数        | 1,211.4件 | 0.3件                     |

| 往診/遠隔診療の時間、報酬 | 往診の場合     | 遠隔の場合          |
|---------------|-----------|----------------|
| 診療時間          | 1.1時間     | 約1/3 → 25分     |
| 診療報酬          | 11,495.3円 | 約1/4 → 3168.6円 |

174円/分  
(移動時間含む)

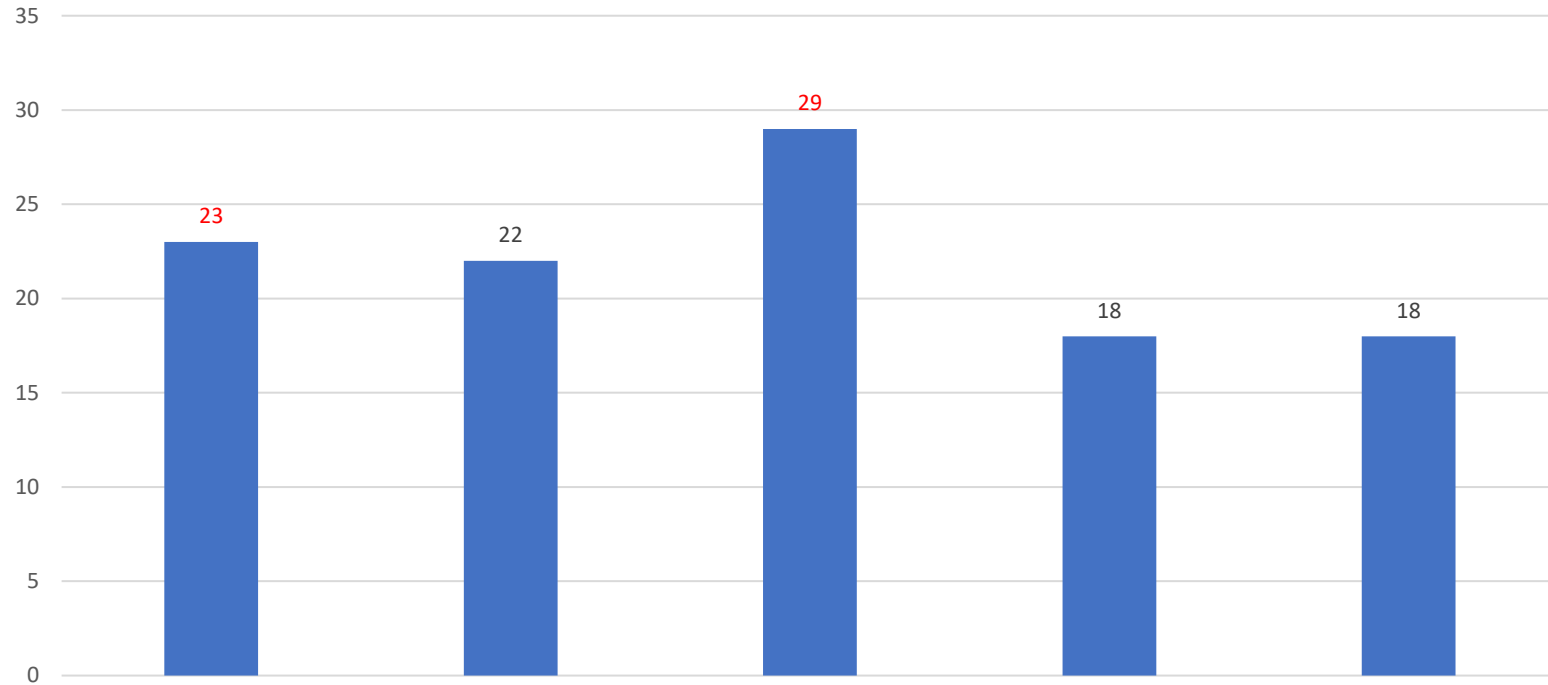
126円/分

往診した場合は多種の診療を実施すること等により、往診時間を考慮しても時間単価は往診診療の方が高いという現状

# 遠隔診療を実施している診療所への調査項目 (n=8)

# 遠隔診療を実施する理由

0～5点で採点、n=8



電話問診や画像等診断によってトリアージ（往診の要否判断含む）が可能のため

遠隔で診断・診療が可能であり対面での診療が不要であったため

農場が遠方であり移動時間が節約できるため

バイオセキュリティ面に配慮し、農場への出入りの頻度を下げるため

獣医師が現場へ到着する前に応急措置や事前準備といった緊急対応が出来るため

その他の理由（自由記載）：死亡確認がへい獣業者の回収に間に合わない場合

# 実施している遠隔診療の種類①

n=8

## 活用する遠隔診療の種類

- V to F : 8 診療所
- V to V : 2 診療所

V to F : 獣医師-農家間での遠隔診療, F : Farmer

V to V : 獣医師-獣医師間での遠隔診療, V : Veterinarian

## 診療対象

- 肉用牛 : 5
- 乳用牛 : 5
- 豚 : 1
- 羊 : 2

## 使用する手段

- 電話で問診（ヒアリング） : 5
- 手紙、メール、FAX等による文章のやり取りを利用した診療 : 1
- 手紙、メール、SNS、LINE等による画像等のやり取りを利用した診療 : 6
- メール、SNS、LINE等による動画のやり取りを利用した診療 : 4
- より高度な情報通信機器（スマートグラス等）を利用した診療 : 0
- 宅配等により送付された検体を利用した診療 : 0

現状では高度な機器を  
活用した遠隔診療は行  
われていない

## 対象疾病

肺炎・気管支炎 : 5、食滞 : 0、第四位変位 : 0、鼓脹症 : 0、腸炎・下痢 : 4、乳房炎 : 3、乳熱 : 0、分娩時の異常、事故 : 1、繁殖障害 : 0、外傷 : 1、関節炎 : 1、蹄病 : 2、皮膚病 : 0、熱射病 : 0、妊娠鑑定 : 0、廃用認定 : 1

# 実施している遠隔診療の種類②

n=8

## 対応方法

- 家畜の状態や体温等を聞き取り、または画像や動画で確認し、往診の要否及び順番を判断： 5
- 体位の矯正、保温等、薬を用いない処置を指示： 1
- 薬の使用を指示： 6
- 発情の状況を確認： 0
- 廃用家畜の状況を確認し、廃用認定： 1
- 現地にいる獣医師に上記いずれかの処置を指示： 1

## 薬を使う場合は？

- 農家の在庫を利用： 2
- 郵送:0
- 職員等が配達： 1
- 離島などに具備した貯蔵設備に農家が行き取りに行く： 0
- 指示書を発行、農家が薬局で購入： 2

## これまで実施した中での課題

- 物を見ないと的確な診断は不可。
- 時間の関係で農場に行けない場合のみに実施している。
- 通信不良

# 実施している遠隔診療の概要

n=8

現在実施されている遠隔診療としては、主に

1. 往診時間を短縮することを目的として
2. V to Fの形で
3. 電話または電話＋画像を用いて
4. 往診の要否・順番の判断、  
または薬の使用指示（対象疾病は腸炎や肺炎）

を行っている

# 全ての診療所への調査項目 (n=92)

# 今後、遠隔診療を活用したいか

n=92

- 現時点で遠隔診療を活用している診療所 8 か所  
→ 全て「活用したい」
- 現時点で遠隔診療を活用していない診療所 84 か所  
→ 54「活用したい」、30「したくない」

→ 今後、活用したいと回答した診療所：62か所（67%）

今後、遠隔診療を活用したいと  
回答した診療所への調査項目  
(n=62)

# 今後活用したい遠隔診療の種類

n=62

## 活用する遠隔診療の種類

- V to F : 56診療所
- V to V : 38診療所

## 診療対象

肉用牛 : 52  
乳用牛 : 57  
豚 : 11  
馬 : 19  
羊 : 4 (北海道NOSAI)

## 使用する手段

- 手段
- 電話で問診（ヒアリング） : 39
- 手紙、メール、FAX等による文章のやり取りを利用した診療 : 6
- 手紙、メール、SNS、LINE等による画像等のやり取りを利用した診療 : 25
- メール、SNS、LINE等による動画のやり取りを利用した診療 : 52
- より高度な情報通信機器（スマートグラス等）を利用した診療 : 21
- 宅配等により送付された検体を利用した診療 : 2

今後、高度な機器を使いたいという要望はある

## 対象疾病

肺炎・気管支炎 : 43、食滞 : 10、第四位変位 : 2、鼓脹症 : 11、腸炎・下痢 : 45、乳房炎 : 34、乳熱 : 13、分娩時の異常、事故 : 17、繁殖障害 : 0、外傷 : 9、関節炎 : 20、蹄病 : 6、皮膚病 : 23、熱射病 : 6、妊娠鑑定 : 0、**廃用認定 : 73**

# 今後活用したい遠隔診療の種類

n=62

## 対応方法

- 家畜の状態や体温等を聞き取り、または画像や動画で確認し、往診の要否及び順番を判断：52
- 体位の矯正、保温等、薬を用いない処置を指示：31
- 薬の使用を指示：55
- 発情の状況を確認：1
- 廃用家畜の状況を確認し、廃用認定：37
- 現地にいる獣医師に上記いずれかの処置を指示：30

# 今後活用したい遠隔診療の概要

n=62

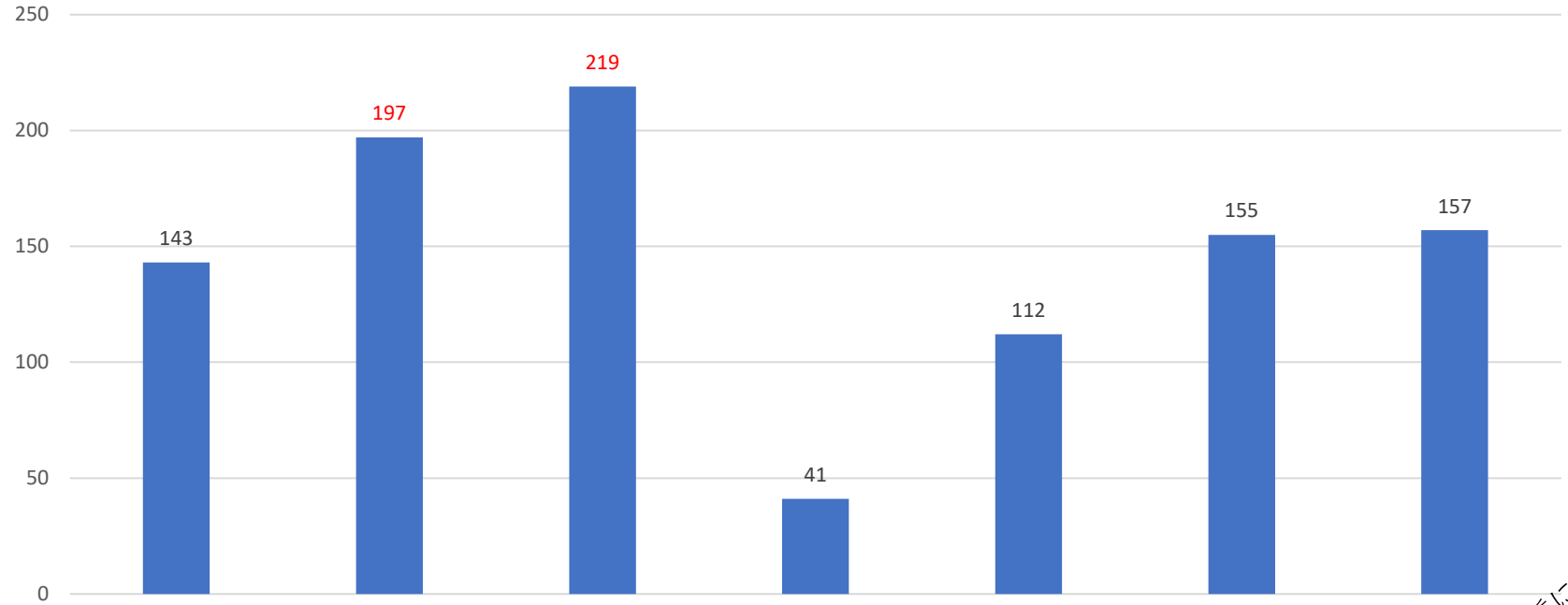
今後の遠隔診療には、主に

1. V to F、V to Vの形で
2. 電話または電話 + 動画を用いて
3. 往診の要否・順番の判断、廃用認定  
または薬の使用指示（対象疾病は腸炎や肺炎）  
を実施したいと考えている。

# 全ての診療所への調査項目 (n=92)

# 遠隔診療の課題

0～5点で採点、n=92



遠隔診療を実施するための機器の整備

農場での通信が安定しないなど、  
通信インフラが整備されていない

高齢化などにより農家の通信機器を扱う技術が不十分

獣医師の通信機器を扱う技術が不十分

事例集・マニュアルが整備されていない  
(やり方のイメージがわからないなど)

医薬品の取扱い方法に不安がある

農家とのコミュニケーションの質に不安がある  
(適切に意思疎通できず、後々、  
クレームになる可能性があるなど)

# 遠隔診療の課題

n=92

## その他（自由記載）

- 遠隔診療後の医薬品による治療方法がわからない（複数）
- 農家の意識改革（複数）
- アプリの使用料が高額で遠隔診療による収入に見合わない
- 遠隔診療を用いた廃用認定のマニュアル(注意点)を示していただけると助かります。
- 農家側に指示をしても実行するスキルがない
- 遠隔診の点数が低い

# 不適切な遠隔診療の事例

n=92

(自由記載)

- 十分な問診を行わずに薬の使用を指示（複数）
- 個体確認が不十分で手技を失敗

以上